

京都 東山三十六峰越 walk «2»

(2) 東山三十六峰南端の稻荷山 横断ハイク 2016.9.13.

稻荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稻荷大社へ

帰りは山科西野山から稻荷山へ登って伏見稻荷大社へ 久しぶりの稻荷山はワンダーランドでした



山科 西野山市街地から眺める稻荷山



山科側の稻荷山山頂 三の峯参詣道



もう 何十年ぶりか? 久しぶりに歩きはじめた稻荷山。

山科側の山中は 緑の林に包まれた静かな空間の中を稻荷山山頂三ヶ峯への小道がつづく。

昔から伏見稻荷への参詣する多くの人がたどった道。

霧雨けぶる林の中に幾つも名も知れぬ祠や塚そして行場がポツと現れてくる 摩訶不思議なワンダーランド。

神が集う山 今はやりのパワースポットか?

初めて山科側からたどる稻荷山への道は

この山が伏見稻荷の御神体山であることを随所で体現させてくれる。

靄がかった林の中に 赤い鳥居が正面向こうに浮かんでいる。

稻荷神が降臨した稻荷山山頂 三ヶ峯への参道の入口である。

何十年ぶりかの三ヶ峰 随分変わっているようですが、 今はどうなっているのか・・・・・・



稲荷山 一の峯への辻 ポイント[52] 2016.9.13. 12:34

登ってきた鳥居をぐぐって 西へ進って行けば、稻荷山山頂の一の峯

左に白帝大樟・大岩大神へ下る島な石段。また、真っすぐ東へ行くと竹之下道

いずれも伏見稻荷 奥の院めぐりの参道である

京都 東山三十六峰越 walk をしようとなった本年6月 山科西野山を歩いた記録です。

このwalkで知った山科の歴史などに触れていますので、ご参考まで

【和鉄の道・Iron Road】 by Mutsu Nakanishi

◆ 京都山科 西野山walk 2016.6.3.

古代の鍛冶伝承・稻荷伝承の残る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

稻荷山概要

稻荷山と伏見稻荷 & 稲荷神の伝承

稻荷信仰に潜むと土着の神

1. 稲荷山横断ハイク walking Map

稻荷山横断ハイク walking Map 伏見稻荷大社へ ← 稲荷山三ヶ峰 ← 山科IC横登山口から



2. 稲荷山 稲荷神降臨・稻荷信仰の伝承

◆ 伏見稻荷大社と稻荷山 稲荷神が降臨した三ヶ峰 稲荷信仰の象徴 赤い千本鳥居と稻荷山の杉



伏見稻荷大社



七条大橋周辺より 鴨川越しに眺める東山 の南端 西野山・稻荷山 2016.9.13.

伏見稻荷大社は京都東山36峰の南端に位置する稻荷山三山(三ヶ峰)を「稻の穀靈神・稻荷大神」が宿る山・神体山とする神社で、稻荷山の麓に本殿があり、稻荷山全体を神域とする。全国に約3万社あるといわれる稻荷神社の総本宮である。

旧称は稻荷神社。式内社、二十二社の一社。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁に属さない単立神社。

稻荷大明神の神名化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稻荷信仰の中心に位置する。稻荷山三ヶ峰の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宫能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に本殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」「四大神」とともに、五柱の神を一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

稻荷神社の起源は「山城国風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊倍具奏公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峰(稻荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。それには富裕だった伊倍具が、お餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稻荷山に舞い降り、そこには、稻が生え(稻成り)いた。伊倍具の子孫は、伊倍具の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稻荷神社の起源とされている。

○ 稲荷山の杉は稻荷信仰の象徴とされ、伏見稻荷大社では神楽を舞う巫女の頭にも、杉の葉が飾られる。



◆ 稲荷山三ヶ峯の社の祭神について インターネット <http://amago.hatenablog.com/entry/2014/08/01/125701> ほかより

伏見稻荷大社は稻荷大明神の神名化された下記5柱の神々を祭神とする全国に広がる稻荷信仰の中心に位置する総本宮。稻荷山三ヶ峯の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を、「佐田彦大神」を中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に本殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」・「四大神」一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

本殿 向かって左から 田中大神 佐田彦大神 宇迦之御魂大神
大宮能売大神 四大神 の五柱がまつられ、
これら五柱の神々の総称が「稻荷大神」とされている。
稻荷神は古く一柱の神のように伝えられていたものが、
平安時代には下社、中社、上社に三座の神々(宇迦之御魂大神
大宮能売大神 四大神)が祀られ、
やがて新たに二座(田中大神 佐田彦大神)を加えて現在の形に
なったと見られている。



伏見稻荷大社 本殿を眺める

稻荷山の山上 三ヶ峰に祀られている三座の神々は古墳時代にまで遡る稻荷山の神奈備信仰とも結びついており、今でも一ノ峰(上之社神蹟=末廣大神)、二ノ峰(中之社神蹟=青木大神)、三ノ峰(下之社神蹟=白菊大神)の三ヶ峯への信仰を色濃く残っています。(御神蹟とは、太古に神が宿っていた場所といい)、また、三ヶ峰の大神は稻荷大明神の神明化された神々とされている。)
また、三ヶ峯の社の祭神については時代の移り変わりによって諸説ありますが、現在の大社の見解では、下社=宇迦之御魂大神、中社=佐田彦大神、上社=大宮能賣大神とし、下社摂社の田中大神、中社摂社の四大神については由緒不明であるものの、「元は稻荷神と何らかの深い関わりがある地主神、あるいは土着的傾向が濃厚」とし、五柱の神を祭神として 伏見稻荷本殿に 一宇相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



一の峯 上社

二の峯 中社

間の峯 荷田社

三の峯 下社

稻荷山の杉は稻荷信仰の象徴

弘法大師と「稻を担う老翁」 稲荷神が 京都東寺の守り神

「稻荷山の杉は稻荷信仰の象徴」
稻荷神社の起源は「山城國風土記」逸文に残されていて、711年(和銅4年)伊倨具秦公が、勅命を受けて伊奈利山三ヶ峯(稻荷山)に三柱の神を祀ったことに始まる。
その理由は伊倨具がお餅を弓矢の的にしたところ、餅は白い鳥になって飛び去り、稻荷山に舞い降り、そこには稻が生えた。(稻成りいなり)
伊倨具の子孫は伊倨具の過ちを悔いて、杉の木を植えて祭ったのが、稻荷神社の起源とされており、稻荷山の杉は稻荷信仰の象徴とされている。

そんなイメージで見るからでしょうか、稻荷山の道筋の杉林は心なしか、密集していて林が暗い。異次元の空間の感じが漂う。
霧雨の林の中 雨粒は落ちてこないので、蒸し暑く
ポケットの地図も内から濡れて びしょびしょです。

119番通報ポイント番号【3】 11:51

この周辺は西野山 山科区に属している。
一方稻荷山全体は伏見区で、正確には東西に並び連なる二つの山。
伏見稻荷の神域も稻荷山。
しかし、ほぼ同じ高さの山が連なっていて 全体を稻荷山と親しまれている

伏見稻荷大社・間の峯 荷田社 と 荷田氏
伏見大社の由来についての伊奈利伝承に対して、稻荷の顯現を「稻を荷なつ老翁」に求める伝承があり、伏見稻荷で泰氏とともに神官を勤めた荷田氏系の伝承と言われている。
稻荷大明神流記(南北朝時代)による(大意)
『弘仁7年(816)4月の夜、弘法大師が紀州田辺の宿で身の立派な老翁に遭遇した。
(これを神と知った)大師は、護謨国家のため密教詔降の道場・東寺において神の加護を待つと告げると、老翁はそのみざりには必ず参會して大師の法命を守るであろうと答えた。
降つて弘仁14年(823)4月13日、彼の紀州の老翁が、稻を担い木の葉を掲げ、二人の女性と二人の童子をもなつて東寺の南門にやってきた。
老翁はしばらく柴守の家に寄宿していたが、その間大師は東寺の仙山山勝地を定めて17日間鎮守し、稻荷の老翁を神として祀った。』
同じような伝承が幾つか有名もあり、東寺の鎮守神として現在でも伏見稻荷大社と東寺とは深い関係が保たれているといふ。
稻荷大明神が稻荷山三ヶ峯に鎮座した際最初に奉仕したのが、荷田氏と言われ、間の峯の荷田社には荷田氏の祖神が合祀されている
インターネット検索まとめ転記

二の峯から三の峯に向かう途中 間の峯 伊勢大神を祀る荷田社 2016.9.13.

伏見稻荷大社/三の峯/山科折上神社 稲荷塚 を結ぶ稻荷信仰のレイライン

◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稻荷・稻荷山・伏見稻荷大社を結ぶレイライン 1/2



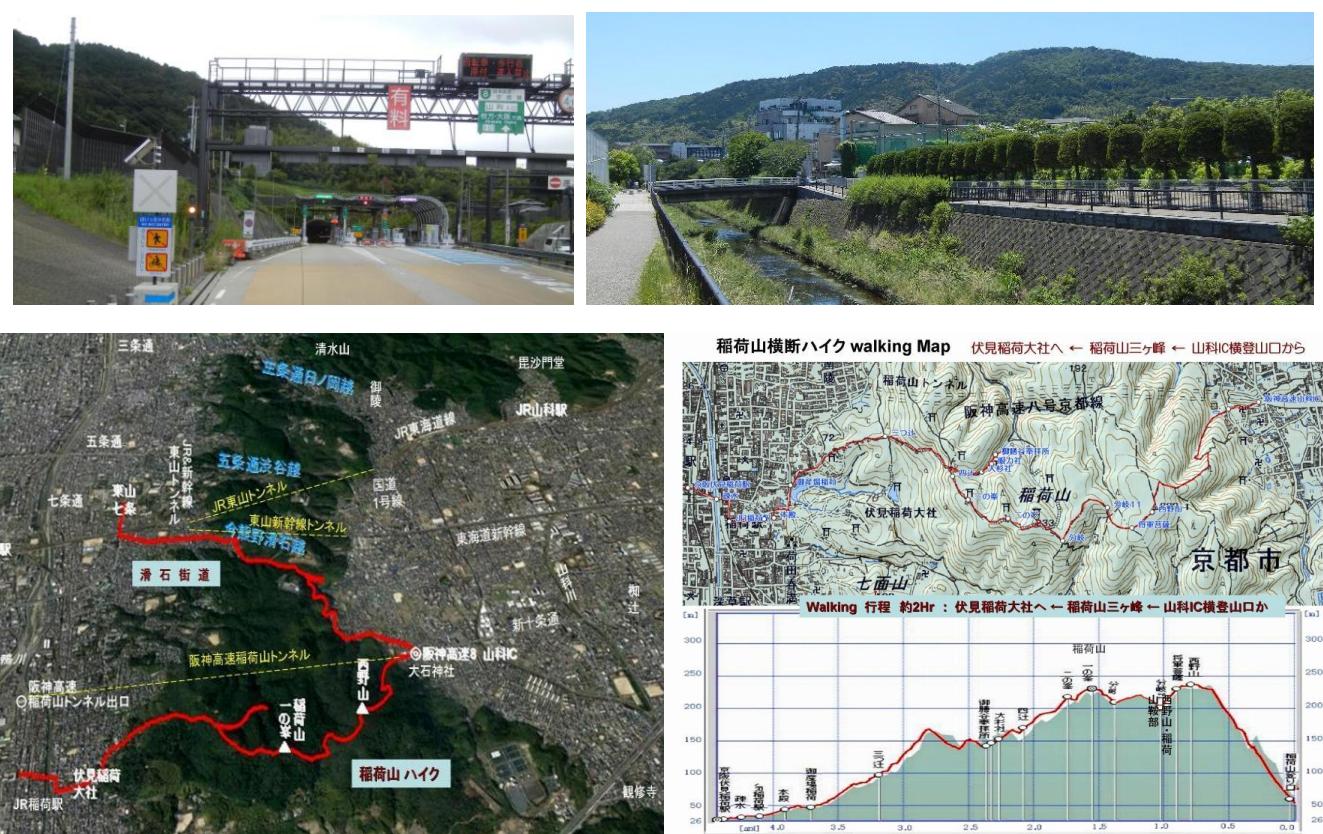
◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稻荷・稻荷山・伏見稻荷大社を結ぶレイライン 2/2



稻荷信仰と結びついた鍛冶伝承 山科花山稻荷の稻荷塚



【スナップ写真抜粋 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稻荷大社へ】 東山三十六峰南端の稲荷山 横断ハイク 2016.9.13.





東山三十六峰南端の稻荷山 横断ハイク を終えて



稻荷山 伏見稻荷大社 三ヶ峰奥社参詣道 四つ辻から眺めた京都市街地 2016.9.13.

久しぶりの稻荷山 初めて歩いた伏見稻荷参詣道稻荷山横断 walk

霧雨が時折降る曇天の天気でしたが、神が宿る山稻荷山の雰囲気が一層強く感じながら 歩けました。

◎ もう何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稻荷山。私の遠い記憶の山とは随分 イメージが違う。

知っているようで知らなかった山に。

山科側の山中は 鬱蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に稻荷山の山頂三ヶ峯への小道がつづく。

稻荷神の化身としての神さんの祠や塚そして行場が数多く散在する魔訶不思議なワンダーランド。

一体幾つあるのだろうか? と。 でも今は山中の自然に溶け込んで、やりのパワース ポットに?

初めて山科側からたどる稻荷山への道はこの山が伏見稻荷の御神体山であることを体現させてくれました。

また、京都側 伏見稻荷神社本殿から三ヶ峰に続くに三ヶ峰奥社 お山巡りの参道にも たくさんの中の塚や祠。

もとは朱の鳥居を含め、古くからの稻荷信仰の「おかげ参り」のたまもの。その数はますます増えてゆく。

昔 登った頃と随分イメージが変化して、戸惑いも。本当にすごい

- 赤い鳥居トンネルが連続し、参詣する人の賑わいもさすが。
 さすが、日本一の外人観光客のスポット。 平日にもかかわらず 三ヶ峰への参道はほとんどが外人の観光客。
 たくましく山を登ってくる外人たちの多さに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも・・・・。
- ◎ 知らなかった山科から稻荷山山越えすれば、もう これで 稲荷山がわかると思っていましたが、
 山中尾根筋や谷道に張り巡らされた参詣道の多さとその隨所にある塚・行場。
 まだまだ 知らぬところが 数知れずあると。
 そればかりか、稻荷伝承も色々。稻荷大社と杉との関係も初めて。 東寺・空海と伏見稻荷との関係も興味(ふかい)。
 やっぱり 自然信仰・土着信仰が、稻荷大神の奥深さの源になっているのだろう。
- ◎ 稲荷山の稻荷大神は農耕豊穣をもたらす開拓神。
 開拓神として ひょっとして 稲荷山の鉱物資源との関係もあるかもしれませんと
 山中の峯・土 そして塚や行場にある伝承等々 歩く先々で痕跡を見まわしましたが、見つからずでした。
 おかげで 静かな山中のあちこちを眺めながらのWalk 本当に面白い山。
- ◎ 40数年前 伏見稻荷大社に数多くある攝社・参拝所のどこかで、「開運のだるま」を受け、お礼参りをした記憶。
 訪ねてみようと探しましたが、開運達磨を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今回のwalkで、終わりにせず、また ちょくちょく 訪ねよう。

霧雨が時折頬をなでる曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稻荷山横断ができました。

2016.9.13. 鴨川七条大橋で

鴨川越しに東山を眺めながら by Mutsu Nakanishi

京都 東山三十六峰越 walk 2016.9.13.

【1】京都市街と山科を結ぶ東山滑石越「滑石街道」を歩く 2016.9.13.

<http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610suberishi00.htm>

【2】東山三十六峰南端の稻荷山 横断ハイク 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稻荷大社へ

<http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

◆ 京都 東山三十六峰越 walk 総合動画 2016.9.13.

<http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610higashiyamagoe.pdf>

【1】滑石街道を歩く 【2】稻荷山横断ハイク 2つの動画を1つのfileに

参考 和鉄の道・Iron Road By Mutsu Nakanishi

1. 京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

【1】京都市街と山科を結ぶ東山滑石越「滑石街道」を歩く 2016.9.13.

京都にこれらしい古道散歩道の発見 府道118号線 今熊野勤修寺線 大石内蔵助が山科から祇園・伏見へ通ったという古道

<http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610suberishi00.htm>

【2】東山三十六峰南端の稻荷山 横断ハイク 稲荷山降臨伝承の三ヶ峰から伏見稻荷大社へ 2016.9.13.

帰りは山科西野山から稻荷山へ登って伏見稻荷大社へ 久しぶりの稻荷山はワンダーランドでした

<http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>

2. 京都山科 西野山walk 2016.6.3.

<http://www.infokkkna.com/ironroad/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>

1. 今の時代に通じる 征夷大将軍「坂上田村麻呂」と蝦夷のリーダー「アテルイ」の評価討論 !!
 NHK BS 英雄たちの選択 「衝突! その時 男は何を見た」 征夷大将軍・坂上田村麻呂」より

2. 京都山科 西野山walk 主要訪問先案内 «山科 西野山Walk 西野山周辺の古代伝承»

3. 京都山科 西野山walk

3.1. 坂上田村麻呂墓を訪ねる 3.2. 稲荷伝承の折上稻荷

3.3. 西野山山麓の鍛冶伝承地 花山稻荷神社 3.3. 勸修寺 回遊式庭園の花菖蒲と睡蓮見学

4. 坂上田村麻呂創建の京都東山 清水寺に アテルイ・モレの碑を訪ねる

3. 京都山科に古代のたら跡 如意ヶ岳南製鐵遺跡群を訪ねる 2013.8.26

<http://www.infokkkna.com/ironroahtd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>

京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

1. 大石内蔵助が京都に通った古道 清石街道(麗闌街道)

2. 稲荷神降臨伝承の稻荷山三つ峠 伏見稻荷大社の参道道をたどる



稻荷山横断ハイク walking Map 伏見稻荷大社へ → 稲荷山三ヶ峠 ← 山科IC横登山口から



◆ 伏見稻荷大社と稻荷山



七条大橋周辺より 桂川越しに眺める東山 の南端 西野山・稻荷山 2016.9.13.

伏見稻荷大社は京都東山36峰の南端に位置する高瀬山(三ヶ峠)を「稻の穀神・稻荷大神」が宿る山神社とする神社で、稻荷山の麓に本殿があり、総門は全体の神像とする。全社に約3万社あるといわれる稻荷神社の総本社である。

旧称は稻荷神社、式内社、二十二社の一社。旧社格は官幣大社で、現在は神社本庁に属さない単立神社。

稻荷大明神の神名化された下刈柱の神々を祭神とする全国に広がる稻荷信仰の「中心」に位置する。

稻荷山三ヶ峠の下社に主祭神である「宇迦之御魂大神」を「佐田彦大神」を中社、「大宮稻壳大神」

を上社に祀る。明治6年(1873年)伊弉諾公が、お辭を告ぐたの時にいたこと、跡は白い鳥になつて飛び去つ。

稻荷山(舞)、跡は、そこには「稻が生え(稻成心)」なのだ。

伊弉諾の子孫は、伊弉諾の神の御代として、稻の木を育て、祭られたのが、稻荷神社の起源とされている。

○ 稲荷山の木は稻荷信仰の象徴とされ、伏見稻荷大社では神楽を奉行する巫女頭にも、杉の葉が飾られる。



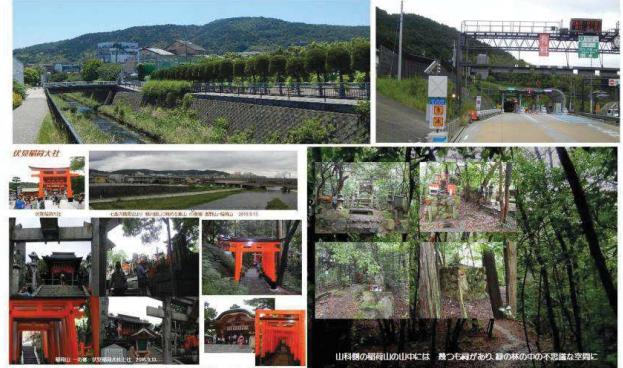
【2】 山科の帰りは 久しぶりの稻荷山横断ハイク 2016.9.13.

福井県勝路信仰の稻荷山 伏見稻荷大社の参道道をたどる



【2】 山科の帰りは 久しぶりの稻荷山横断ハイク 2016.9.13.

山科西野山から福井山へ登って伏見稻荷大社へ 久しぶりの稻荷山はワターランド



もう何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稻荷山。山科側の山中は、若者とした野の木に囲まれた静かな空間で稻荷山の山頂三ヶ峠への小道がづづく。昔から、伏見稻荷への参拝する多くの人がたどった道。神さんの祠や埋もれての場所が多く残在する摩利不思議なワターランド。一体幾つあるのだろうか? 今はやりのバーバーストとか? 勘て山科側からたどる稻荷山への道の上の山が伏見稻荷の御神体山であることを体现させてくれる。

さて、伏見稻荷本殿と御神体山を結ぶ参道は、この山科側からたどる道が最も長い。長い参道を歩きながら、山科の山の風景を眺めながら歩くのが結構おほかだしい歴の古い参道トンネルが連続し、参道する人の感動のまゝですが、平日にもかかず、三連の参道を登ってくる人はほとんどが日本人の観光客。さすが、日本一の外国人観光客のスポットに。

たくましく山を登つくる外人の方たちまさに、今の日本人が忘れてしまった氣質を見る思いです。。。。

霧雨が時折現れる雲霧でしたが、念願の山科側から京都都市内側への稻荷山横断ができました。

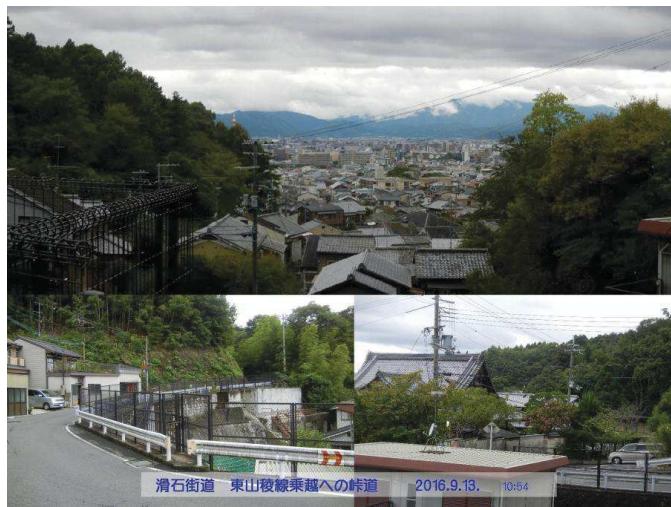
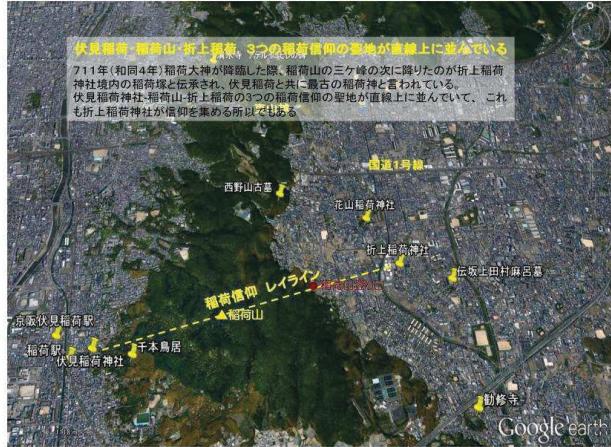


◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稻荷・稻荷山・伏見稻荷大社を結ぶルート 2/2

稻荷の大神降臨伝承地 折上神社

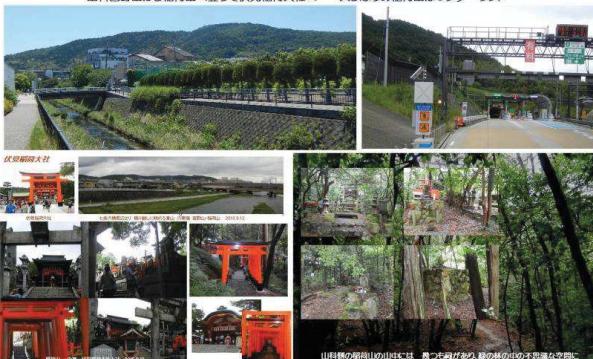


◆ 稲荷信仰聖地 山科折上稻荷・稻荷山・伏見稻荷大社を結ぶルート 1/2



【2】山科の帰りは 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.

山科西野山から稲荷山へ登って伏見稲荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド



西野山山頂南部 將軍苦蕪周辺 2016.9.13.



稲荷山 一の峯への辻 ポイント【52】 2016.9.13. 12:34

見えてきた鳥居をくぐって 西へ登って行けば、稲荷山山頂の一の峯

左に白帝大權・大岩大神へ下る急な石段 また、真っすぐ南へ行くと竹之下道

いずれも伏見稲荷 奥の院めぐりの参道である

伏見稻荷大社



七条大橋脇より 鴨川越しに眺める東山 の南端 西野山・稻荷山 2016.9.13.



一度ぜひやってみたかった東山三十六峰 東山越 & 伏見稻荷参道の稲荷山横断walk

○ 滑石街道 東山滑石越 京都にうれしい古道の散歩道 発見でした。
曲がりくねった狭い道の両側にびっしり今熊野から東山を登るというより、ぶらぶら坂歩きで約30分で峠に
また、約30分で山科の街へ。
京都と山科でこんなに近いとは……。
逆に気分的な離路もない車には邪魔されず歩ける鹿児の道(滑石街道)。
観光客の離路もない車には邪魔されず、山から眺める景色も独り占め。
昔ももうずっと車は邪魔されず歩ける鹿児の道(滑石街道)。
もう何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた福荷山。私の古い記憶の山とは随分 イメージが違う。
知っているようでは知らない山だ。

山科側の山中は、苔蒼とした緑の林に包まれた静かな空間に福荷山の山頂三ヶ峯への小道がづく。
福荷神の化身として祀られる神の祠や深そして行者が数多く散在する聖詛不思議なワンダーランド。
一休焼つあるのだろうか? でも今は山中で自然に溶け込んで、今はやりのワームスポットか?
正面の山科側へと移るときの福荷山の御神木山であることを体現させてくれる。
正面の京都市、伏見稻荷神社の奥から峠へ向けて峠奥へお山通りの参道にもたくさんの中や間。
山中は尾根筋沿いに、かわいい鳥居や石碑が並んでおり、お参りのたまもの。その数はますます増えてゆく。
昔もきっと地と縁ふくメモリが変化していく。あれ? 本堂手前でお参りのたまもの。
福荷大社と多くの関係を初めて。東寺・空海と伏見稻荷との関係も興味ぶかい。
やっぽう 自然信仰・土希信仰が、福荷大神の奥深さの源になっているのだろう。

○ 福荷山の開拓 大神が農耕開拓をしたら開拓神
開拓ほどで ひっしつて農業資源との関係があるかもこれぬと 山中の峯・峠・そして塚や行場にある伝承等々
歩きながら山科から福荷山を越えれば、もうこれまで 福荷山がわかると思っていましたが、
山中の尾根筋沿いに、かわいい鳥居や石碑が並んでおり、お山通りの参道などその場所にある塚・行場。
まだ 知らぬところへ、散歩すればある。それは何かか、福荷伝承も色々。興味深い。
福荷大社と多くの関係を初めて。東寺・空海と伏見稻荷との関係も興味ぶかい。

○ 40年前位 伏見稻荷大社で数多ある標柱・參拜所のどこかで、「開拓のたるま」を受けで、また、お参りをした記憶がある。
それを追ねてみようと思ったが、開拓庵を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今回のwalkで、終わりにせず、また、ちょくちょく 訪ねてこよう……。
霖雨が時折頻繁となる曇天でしたが、念願の山科側から京都市内側への福荷山横断ができました。

一度歩いてみたかった東山36峰の南端 西野山・稻荷山の横断

久しぶりの東山walk はワンダーランド おもしろいハイクでした



鴨川 京都駅東 境小路橋から遠望する東山南端部 西野山・稻荷山 2016.9.13.

京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

1. 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道(醍醐街道)
2. 稲荷神高麗伝承の稲荷山三つ峠 伏見稻荷大社の参道をたどる



阪神高速山科IC・稻荷山トンネル入口 2016.9.13.

この左手すぐのところに大石神社があり、稲荷山の登り口。
地元の人から「大石神社まで行かずとも、IC横の道をトンネルのところまで登れば、稲荷山への登り口」と教えてもらって、ここから登ることに。

参考 和鉄の道 Iron Road By Mutsu Nakaniishi

1. 京都市街と山科を「東山」を越えて結ぶ滑石街道 & 稲荷山横断 ハイク 2016.9.13.
 - [1] 京都市街と山科を結ぶ東山滑石越 滑石街道を歩く 2016.9.13.
[京都にうれしい古道の散歩 発見](http://www.infokkna.com/ironrohtd/2016htm/iron12/1610suberiish00.htm)
 - [2] 久しぶりの稲荷山横断ハイク 2016.9.13.
山科西野山から稲荷山へ登って伏見稻荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランド
<http://www.infokkna.com/ironrohtd/2016htm/iron12/1610inariyama00.htm>
2. 京都山科 西野山walk 2016.6.3.
古代の鎌倉伝承・稻荷山の渓谷を走る京都山科に坂上田村麻呂の墓を訪ねる
●坂上田村麻呂墓を訪ねる ●西野山山麓の鎌倉伝承地 花山稻荷神社 ●稻荷伝承の折上稻荷
<http://www.infokkna.com/ironrohtd/2016htm/iron12/1607nishinoyama00.htm>
3. 京都山科に古代のたたら跡 如意ヶ岳南製鉄遺跡群を訪ねる 2013.8.26.
<http://www.infokkna.com/ironrohtd/2013htm/iron09/1309yamashina00.htm>







119番通報ポイント番号【6】 12:01
山腹を南から登ってきた勧修寺・山科浄水場からの道(左)との合流点
右が稲荷山への道で、稲荷山へ続く西野山の頂上への登り 頂上はもうすぐ上



尾根筋に登り切るとそこは中央に三角点がある緑の明るい広場
鬱蒼とした森を抜けた明るい空間に心地よい
西野山頂上 三角点 2016.9.13. 12:10



雨に煙る山科が樹木の間から見え 稲荷山へ続く西野山の頂上も近い



西野山頂上 三角点 2016.9.13. 12:10



南へ延びる西野山の広い山頂部 林の中に幾つも祠や塚の立てられている一角が現れる
深い森の中に 突然現れる不思議な空間 2016.9.13.



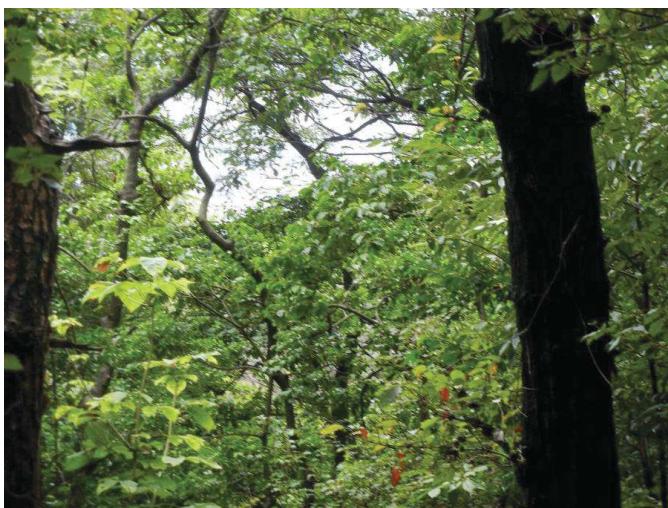
西野山山頂南部 将軍菩薩とその一角の塚 2016.9.13. 12:12

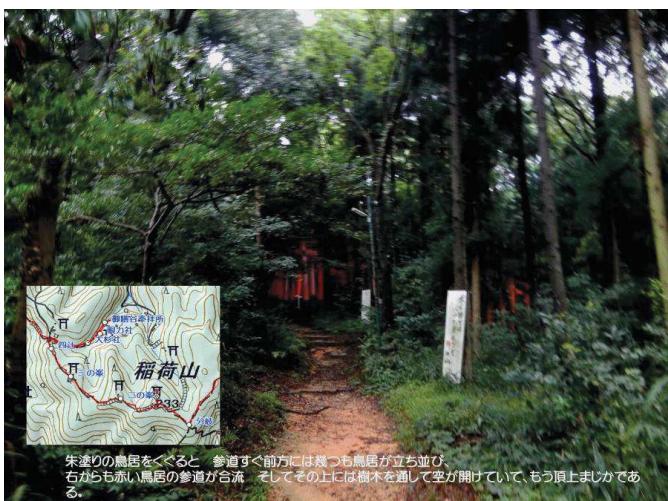
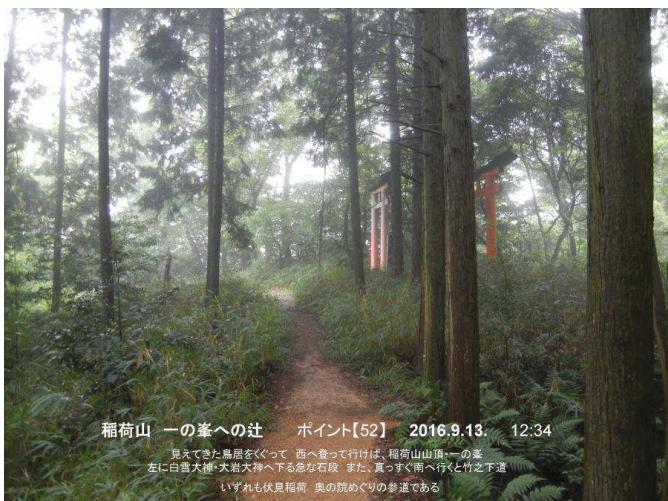


西野山山頂南部 将軍菩薩周辺 2016.9.13. 12:12
三角点の広場を抜け 南へ延びる西野山の広い山頂部の林の中に幾つもの祠や塚があり、
ちょっと不思議な空間 周辺あちこちに名前も不明な赤い垣や組上げられた岩がある。
稲荷山も含め、1万を超える塚や祠があるといわれている



西野山山頂南部 将軍菩薩周辺 2016.9.13.







◆ 稲荷山三ヶ峯の社の祭神について インターネット <http://emago.hatenablog.com/entry/2014/08/01/125701> ほかより

伏見稻荷大社は稻荷大明神の神名化された下記5社の神々を祭神とする全国に広がる稻荷信仰の中心に位置する總本宮。稲荷山三ヶ峯の下社(主祭神)である宇迦之御魂大神(=「佐田彦大神」)と中社、「大宮能売大神」を上社に据え、明応8年(1499年)に木殿に合祀された左右の摂社、「田中大神」「四大神」。一字相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。

本殿 向かって左から 田中大神 佐田彦大神 宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神 の五柱がまつられ、これら五柱の神々の総称が「稻荷大神」とされている。

稻荷神は古く村の神のようにならわれていたものが、平安時代には下社、中社、上社に三座の神々(宇迦之御魂大神 大宮能売大神 四大神)が祀られ、やがて新たに二座(田中大神 佐田彦大神)を加えて現在の五柱になったと見られる。

稲荷山の山上 三ヶ峰に祀られている三座の神々は古墳時代にまで遡る稲荷山の神奈備信仰とも結びついており、今でも一・二・三ヶ峰(上之社神饌=天麿大神)、二・三峰(中之社神饌=青木大神)、三・四峰(下之社神饌=白菊大神)の三ヶ峯への信仰を伝承く残っています。(御神饌とは、太古に神が宿していた场所といい、また、三ヶ峰の大神は稻荷大明神の神明化された神々とされています)。

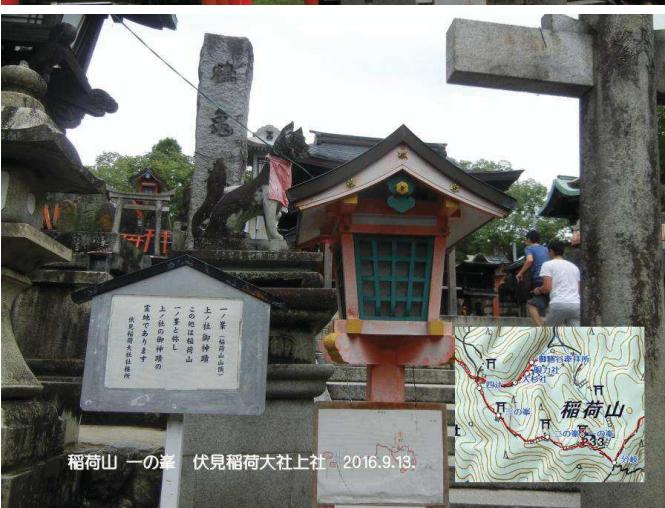
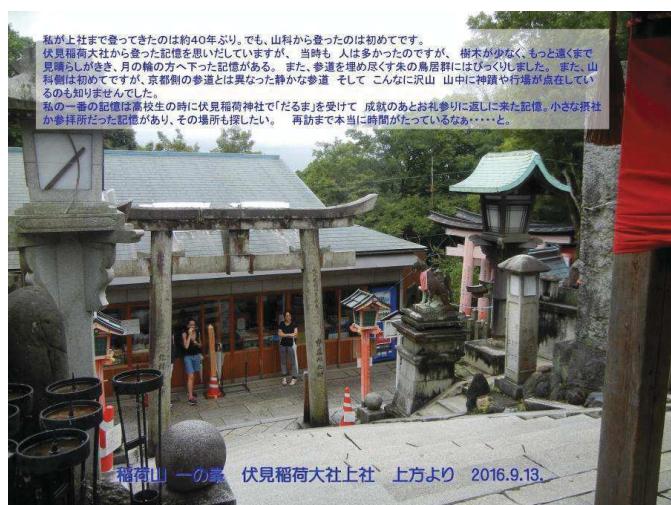
また、三ヶ峰の社の祭神については時代の移り変わりによって諸説ありますが、現伏見大社の御神饌では、下社=宇迦之御魂大神、中社=佐田彦大神、上社=大宮能売大神とし、下社摂社の田中大神、中社摂社の四人神については田舎小神であるものの、「元は稻荷神と同らかの衆」(奥むろががる地主)が、あるいは土着的傾向が濃厚」とし、五柱の神を祭神として 伏見稻荷本殿に 一字相殿(一つの社殿に合祀する形)に祀っている。



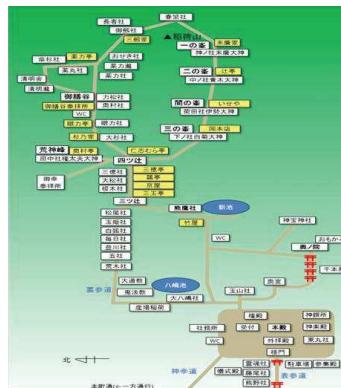
伏見稻荷大社 本殿を眺める

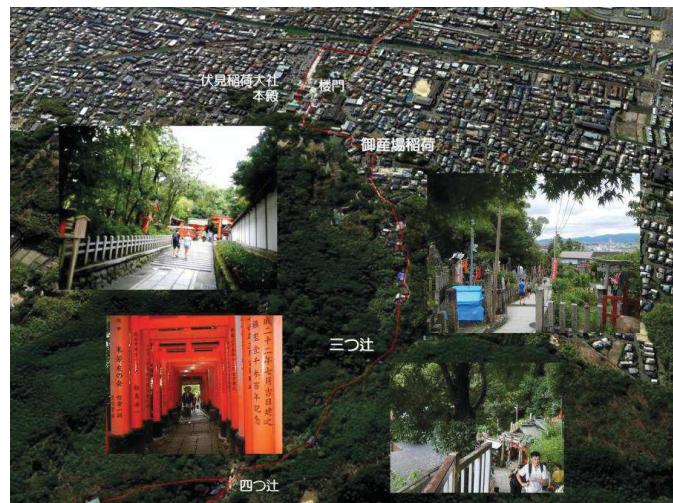


私が三ヶ峰に登った記憶は遠く学生時代 もっと樹木も少なく、街がみえたと、また、鳥居が山上まで 歩道を途切れることなく埋め尽くしていることにも驚いています。当時 参詣者は多かったですが、今の外人観光客の多さにびっくりです。













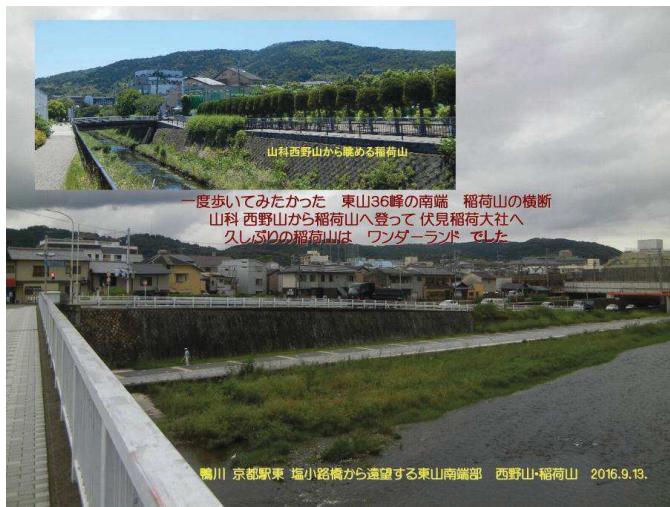
一度歩いてみたかった 東山36峰の南端 稲荷山の横断 2016.9.13. (左上写真インターネットより)
山科 西野山から稲荷山へ登って伏見稻荷大社へ 久しぶりの稲荷山はワンダーランドでした



もう何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稲荷山。山科側の中は、整備した林と未だ開拓された空き地に沿った山道と三ヶ峯への小道がつづく。音から、伏見稻荷への参詣する多くの人がいた。神さんの音や鐘として行場が数多めに在する摩団不思議なワンダーランド。一体幾つあるのだろうか? 今はやりのハーフ・スパート。初めて山科側からたどる稲荷山への道のこの山が伏見稻荷の御神体山であることを表現させてくれる。

また、京都伏見稻荷大社を出て、JR山科駅を出て、西野山へ向かう。そこには、西野山古墳群がある。そこには、お出でになられたおじいちゃんの墓がある。お出でになられたおじいちゃんの墓がある。さすが、日本の外人観光客のスポットに。たましい山を登っている外人の方々多しに、今の日本人が忘れてしまつた良質な慰めの言葉も.....。

霧雨が時折現れる晴天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。



一度歩いてみたかった 東山36峰の南端 稲荷山の横断
山科 西野山から稲荷山へ登って 伏見稻荷大社へ
久しぶりの稲荷山は ワンダーランド でした

久しぶりの稲荷山 初めて歩いた伏見稻荷参詣道稲荷山横断 walk

① もう何十年ぶりか? 久しぶりに歩いた稲荷山。私の遠い記憶の山とは随分イメージが違う。
知っている山の中では、整備した林に包まれた静かな空間に稲荷山の山頂三ヶ峯への小道がつづく。
稲荷神の化身として祀られた神の祠や塔そして行場が数多く残する摩団不思議なワンダーランド。
一体幾つあるのだろうか? 今はいい音の流れ込みで、古きやうのバース・ボート?
初めて山科側からたどる稲荷山への道はこの山が伏見稻荷の御神体山であることを表現させてくれる。

また、京都伏見稻荷大社から三ヶ峯に続く三ヶ峯奥の院参道にも、たくさんの塚や行場。
そこには朱の鳥居を含め、古きからの稲荷信仰の「おけが参り」のたまもの。その数はますます増えています。
昔 登った場所と踏み印や石碑化して、戸惑いも、本当にすごい。
古い鳥居はシルバーアクセントで、参詣する人の脈つなぎもさすが。
平らにもかかららず、三ヶ峯への参道を登ってくる人はほとんどが外人の観光客。
さすが、日本一の外人観光客のスポット。
でも、たましい山を登っている外人の方々多しに、今の日本人が忘れてしまった気質を見る思いも.....。

② 知らなかった山から稲荷山山越えすれば、もうこれで、稲荷山がわかると思つていましたが、
山中尾根筋や谷筋に重ねられた参詣道の多さとの廻遊による廻り行場。
まだ、知らないところもある。数知れずある。
それはばかりか、稲荷信仰も色々、興味深い。
伏見稻荷大社と山の関係も初めて、東寺・空海と伏見稻荷との関係も興味深い。
自然信仰・土着信仰が、稲荷大神の奥深さの源になっているのだろう。

③ 稲荷山の稲荷大社が耕作農地をもたらす開拓神。
開拓神として、ひょとして耕作資源との関係があるかも知れぬと、山中の峯・土 そして塚や行場等々が先々で跡跡を見まわしましたが、見つかませんでした。でも、本当に面白い山。

④ 40数年前、伏見稻荷大社に數多くある御神社・参拝所のどこかで、「開運のだるま」を受け、また、お礼参りをした記憶がある。そこを訪ねてみようと探しましたが、開運達磨を売っている店はあるのですが、今回はよくわからず。

今回のWalkで、終わらせせず、また、ちくちく 話ねよう.....。
霧雨が時折現れる晴天でしたが、念願の山科側から京都市内側への稲荷山横断ができました。

2016.9.13. 鴨川七条大橋で 鴨川越しに東山を眺めながら by Mutsu Nakanishi

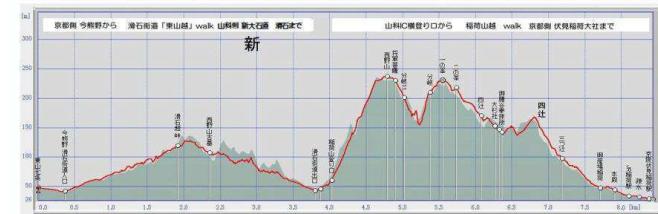
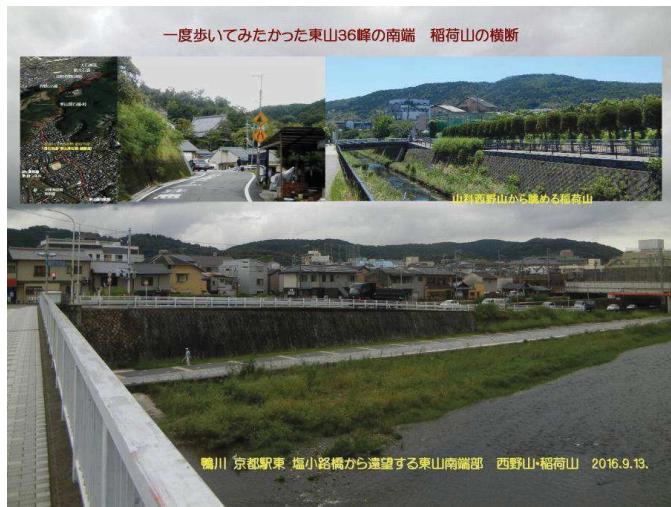


[追補] 2つに分けた掲載した 9月13日の京都東山往復walk

京都 東山三十六峰越 Walk 2016.9.13.

1. 大石内蔵助が京都に通った古道 滑石街道(醍醐街道)
2. 稲荷神伝説伝承の稲荷山三つ峯 伏見稻荷大社の参詣道をたどる





今熊野橋より、東山をトンネルで抜けてゆくJR東海道線(左)・新幹線(右) 2016.9.13.
滑石街道は正面に見える東山の右手を越えてゆく



最近、山科西野山(男根)を歩いていて知ったJR東山トンネルの上を越えて東山河原町の滑石街道(府道1号今熊野筋修寺線)。

かつては琵琶湖と山科を結ぶ間違として、京都ではよく使われた道で、東山を越えて山科に入る西野山地区は古い時代、中臣氏(源氏)の本拠地であり、坂之上・田村山の墓がある。また、忠臣蔵大石動画(奥住)、忠臣蔵の舞台をめぐらしたところでもある。

またこの東山は稲荷山そして駒頭への道もある。古い歴史をたどる道、「滑石街道」の名前にはさぞ由緯があるのだろう。

「滑石街道」の名は忠臣蔵の和歌を詠んだ大石内蔵助が、放逐を蒙って、毎夜昼夜 東山の山道を越えて、画面、伏見へ通った際に、

准の付いた道で足を洗って船入だしたところと傳い、どうなく大石も滑石へ駒頭へ山道と呼ばれるようになったという。

何が手付かずでこの道が名づけられたのか、その由緒は未だ不明である。

また、駒頭へ山道の最初の橋である「駒頭の瀬」が修業僧の生活道路。古い時代から往来がなされた生活道路。

三条、日向神社、五条、熊野山の道が、毎の店、車道が走る駒頭道路に沿って、びっくりの駒頭山。

それとも、東山通今熊野から東山を登るといふより、どちらかと云ふべき道である。山科へ向むく坂歩きで約30分で山科の街へ。

約1時間 急げばもとれない時間で、京都と山科の壁「東山」を越えられるなど本当にびっくり。

昔も今もずっと、常に駒頭されながら歩ける庶民の「滑石街道」なんだよ。

観光客の駒頭もなし、車にも駒頭されず、山から眺める景色を独り占め。京都にうれしい古道の散歩道 発見でした。

小粒の雨がちがついますが、やわらかく、このまま大石神社の横から稲荷山に登って 伏見稻荷大社へ参拝して帰ることに

2016.9.13. 山科 滑石・新大石道 たどってきた滑石街道の道を眺めながら Mutsu Nakanishi

